

# フォスタリングチェンジ・プログラム 2022年度実施報告



一般社団法人 無憂樹



はじめに	01
フォスタリングチェンジ・プログラムについて	02
2022年度実施状況の概要	03
プログラムの概要	04
<b>実施報告</b>	
○フォスタリングチェンジ・プログラム in 北海道	06
○フォスタリングチェンジ・プログラム in 青森	07
○フォスタリングチェンジ・プログラム in 岩手	08
○フォスタリングチェンジ・プログラム in 茨城	09
○フォスタリングチェンジ・プログラム in 栃木	10
○フォスタリングチェンジ・プログラム in 千葉	11
○フォスタリングチェンジ・プログラム in 東京	12
○フォスタリングチェンジ・プログラム in 横浜	13
○フォスタリングチェンジ・プログラム in 新潟	14
○フォスタリングチェンジ・プログラム in 山梨	15
○フォスタリングチェンジ・プログラム in 長野	16
○フォスタリングチェンジ・プログラム in 静岡	17
○フォスタリングチェンジ・プログラム in 京都	18
○フォスタリングチェンジ・プログラム in 大阪	19
○フォスタリングチェンジ・プログラム in 広島	20
○フォスタリングチェンジ・プログラム in 山口	21
○フォスタリングチェンジ・プログラム in 福岡	22
○フォスタリングチェンジ・プログラム in 佐賀	23
○フォスタリングチェンジ・プログラム in 大分	24
ファシリテーターフォローアップミーティング	25
プログラムに関する里親の評価	26
総括 2022年度の実践と今後の課題	28

## はじめに

### フォスタリングチェンジ・プログラムと事務局のこれから

一般社団法人 無憂樹 代表 上村 宏樹

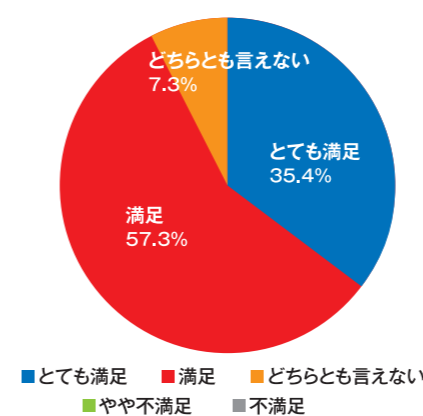
フォスタリングチェンジ・プログラムは2016年3月に、日本で最初の養成講座が開催されました。それから7年余が経ちました。FCP養成講座を受講した数も245名となり、35の自治体にまで広がりました。実施自治体につきましても、2020年度以降はコロナの影響で微減となりましたが、2019年度では22都道府県で行われ、中には年に複数回行われる自治体や、同都道府県で2か所開催される場所もありました。また、成果につきましても、毎年出している年次報告書に見られますように、プログラムに関する里親の評価は非常に高く、里親参加者の出席率も軒並み高い水準となっています。これはひとえに、FCPファシリテーターの皆様のご努力と里親のみなさまの実践の結果であると思いますし、同時にこのプログラム内容の素晴らしさだと思います。

FCP養成講座に目を向けますと、アンケート結果から受講者の方の満足度も高く、「とても満足している」「満足している」を合わせると92.7%（図1）にもなり、また目的やサポート、利点についても高い評価となっております（図2）。同時に、FCPを伝える自信につきましては「どちらともいえない」「あまりない」が大半を占めています。これは養成講座のブラッシュアップとともに、養成講座後の取り組みやサポートが必要になることだと思いますので、改めて事務局で何ができるかを今後考えていきたいと考えております。

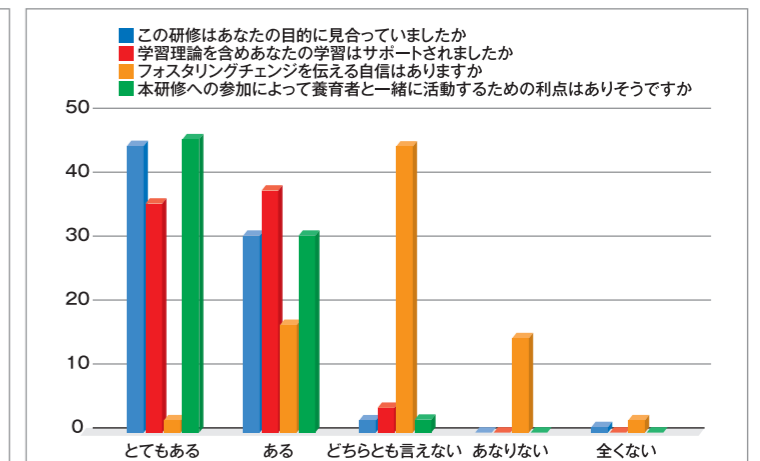
今後について申し上げますと、2022年度で日本財団からの助成が終了となります。日本財団には多大なご協力や助成をいただき大変感謝いたしております。今後、事務局として、先に述べたファシリテーターの皆様へのサポートやFCPの質の担保をどのように維持・発展させていくのか、またどのように経済的にも自立していくのかが大きな課題となります。養成講座参加者の皆様におかれましては、多大なご負担をおかけしているところですが、フォスタリングチェンジ・プログラムを提供し、質を担保し、里親や子どもに届け続けられるよう今後とも尽力していく所存ですので、引き続きご理解のほどをお願いしたいと思います。また、これを機に新たなプログラムやより良いサービス、価値の提供に事務局として取り組んでいくつもりですので、引き続きどうぞよろしくお願いたします。

最後になりましたが、改めて4年間事務局に多大なご助成をいただいた日本財団に感謝申し上げますとともに、いつもあたたかく支えてくださる松崎先生、上鹿渡先生、そしてトレーナーの皆様、並びに全国のファシリテーターの皆様、里親の皆様、子どもたちに感謝を申し上げて、第7回目の報告書をお届けさせていただきます。

FCP養成講座 受講者による研修全体の満足度



2021年度 第9回～第12回 無憂樹事務局調べ・松田作成



2021年度 第9回～第12回 無憂樹事務局調べ・松田作成

## フォスタリングチェンジ・プログラムについて

早稲田大学教授・児童精神科医 上鹿渡 和宏

2016年改正児童福祉法に示された「家庭養育優先原則」を実現するために、2020年度から全国の自治体がそれぞれの計画に沿って新しい社会的養育体制構築に向けて動き始めました。そして、2022年度の児童福祉法改正では家庭養育の推進により児童の養育環境を向上させるため、里親支援センターを児童福祉施設として位置付け、里親支援の費用を里親委託の費用と同様に義務的経費とすることが示されました。これからの社会的養護の主軸となっていくことが期待される里親養育を包括的に支援する里親支援センターの設置が全国でさらに加速すると考えられます<sup>\*1</sup>。里親委託における養育の質をどう担保するかが大きな課題であり、「子どものため」の支援が、子どもにとって最善の成果をもたらすことができるよう、支援や養育の評価や子どもの声を聴くことが一層必要とされています。フォスタリング機関・里親支援センターの役割の充実と各里親の養育スキル向上がますます必要とされる状況となっています。

フォスタリングチェンジ・プログラムは、1999年ロンドン・モーズレイ病院の専門家チームによって開発された、子どもが委託されている里親のための研修プログラムです。アタッチメント理論、社会的学習理論に基づき、週1回3時間、里親グループ(6~10人程度)でのセッションを12回実施します。社会的養護下の子どもの抱える課題、様々な虐待の影響に配慮した子どもの視点での理解と、それに基づく対応について学びながら実践を続けることで、子どもの行動の背景にあるニーズに気づき、対応できるようになることを目指します。また、里親の自尊感情や自信を回復する重要性が明示されている点も特徴的です。参加者は必要な専門的知識を子どもとして、また親としての自身の経験に照らしつつ、他の養育者の経験やロールプレイ、グループ討論などを通して学び、それが確実な実践につながるように工夫されています。このプログラムでは、まず子どもとの関係の改善・向上に力点を置きます。問題行動への直接的アプローチに類する実践的スキルは後で学ぶこととなります。また、実施前の家庭訪問による聞き取り調査やプログラム開始前と終了時の客観的尺度を用いての評価が組み込まれており、さらにセッション毎のアンケートも準備されています。ロンドン大学キングスカレッジのチームにより、ランダム化比較試験(RCT)という信頼性の高い研究方法で、このプログラムの短期的効果についての評価もなされ、効果が確認されています。

日本への導入にあたっては、SOS子どもの村JAPANと福岡市が連携し、日本財団からの助成を受けて企画委員会が立ち上げられました。第1回ファシリテーター養成コースが2016年3月に福岡市で実施され20名のファシリテーターが受講し、同年5月から福岡

市で日本最初の里親向けプログラムが実施されました。懸念された出席率も97%と非常に高いもので、参加者からもたいへん好評でした。本プログラムの準備・実施を通して里親支援者の専門性向上も期待でき、個別相談においてもそれぞれに応じた助言に生かすことができることがわかりました。2017年2月には東京で第2回ファシリテーター養成コースが開催され、同年度中に全国11か所で里親向けプログラムが実施され、およそ70名の里親を対象に実施した評価により、プログラムの効果も確認されました。その後、全国各地でファシリテーター養成コースが開催され、2019年8月には福岡市で日本人トレーナーによる養成コースを初めて実施し、2019年度は全国22か所でプログラムが実施されました。

さらに、現場から要望の多かった思春期版プログラム(12+)についても、2020年度に福岡市で初めて実施しました。新型コロナウイルス感染が拡大する中、当初はファシリテーター養成コースや里親向けのプログラムも中止・延期となりましたが、年度後半からは十分な感染対策を実施しながら里親向けプログラムを対面実施できた地域もありました。また、ファシリテーター向けのフォローアップミーティングをリモートで開催し、その経験も生かしてファシリテーター養成コースと12+養成コースもリモートで開催するようになりました。フォローアップミーティングについては全国からの参加がしやすくなり、参加人数も多く内容も充実し、感染拡大収束後もリモート開催の継続が検討されています。2021年度も新型コロナウイルス感染状況は落ち着かず、対面によるプログラム実施には細心の注意が必要とされる状況が続いていますが、全国13か所でプログラムが実施されています。2022年度は、全国19か所で22グループに実施され(年に2回、3回の実施例あり)、全国で109名の里親がフォスタリングチェンジ・プログラムを受講しました。

前述の通り、全国でこれまでに以上に里親養育の質の担保に向けた取り組みが求められており、フォスタリングチェンジ・プログラムの実践はこれまでに以上に必要とされるでしょう。プログラムで習得する多くのスキルの中でも鍵となる「アテンディング」では、子どもと養育者が「いっしょにいること・ともにいること」を短時間でも毎日確実に実施します。アテンディングは、子どもにとって大事な時間となり、子どもと養育者の間に「ともにいる」大切な関係が構築されます。里親養育の中でも最も重要な安定したアタッチメント形成<sup>\*2</sup>にあたって大変効果的な方法です。里親養育が「子どものために」に留まらず、「子どもとともに」あることができるよう、フォスタリングチェンジ・プログラムには具体的な方法が示されています。里親養育支援に携わる方々と養育者の努力が、子どもにとっての様々な良い変化(成果)につながることを期待しています。

<sup>\*1</sup> 政策基礎研究所「里親支援センター(仮称)の設備・運用基準、第三者評価のあり方に関する調査研究」(令和4年度子ども・子育て支援推進調査研究事業)を参照。  
<sup>\*2</sup> フォスタリングチェンジプログラム実施者には里親養育支援におけるアタッチメントの理解と対応について、S・ジリアン他著、御園生他監訳「アタッチメント・ハンドブック 里親養育・養子縁組の支援」2022(明石書店)をぜひ参照し理解を深めていただきたい。

## 2022年度フォスタリングチェンジ・プログラム実施状況の概要

SOS子どもの村JAPAN/広島国際大学 松崎 佳子

フォスタリングチェンジ・プログラム(以下FCP)は、ネグレクトや虐待が与える影響を考慮しつつ、効果的なコミュニケーション、問題解決のスキルを重視し、里親が日々の生活の中で、子どもの行動のニーズを把握し対応できるようになること、子どもとの良好な関係性の構築を目的としている研修です。2016年度に福岡と熊本でスタートし、2019年度は、全国22ヶ所での実施と広がっていました。

しかし、2020年からの新型コロナの流行により、各地の研修会やイベント等は、延期や中止をせざるを得ない状況が続いてきていましたが、時期の検討や消毒や安全な場所の設定などのコロナ対策を工夫することにより、若干実施地域が増えてきており、今年度は、全国19地域で実施されました。特に今年度は、2地域で複数回実施されているのが特徴です。詳細は、表1及び各地報告をご参照ください。思春期版は1地域での実施となっています。

- ① コロナ対策として、各地域では、会場を広く設置し、換気の徹底、消毒やマスク、距離をとるための机やイスの配置の工夫、アクリル板を設置してのディスカッション、筆記用具等の個別の用意をおこなうとともに、特にFCPで大事にしているおやつについても、個別の配付にしたり、距離をとっての懇談にしたりと、様々な工夫を行っています。
- ② ファシリテーター養成講座は、通常版養成講座(4日間)を9月、2月に、思春期版養成講座(1日)は、通常版を2回以上経験したファシリテーターを対象に3月に実施しました。9月と思春期版養成講座はオンラインでしたが、2月実施養成講座は対面式で実施できました。3年ぶりの対面式で、やはりFCPの温かさ、協働性などをより実感できたのではないかと思います。
- ③ ファシリテーターのスキルアップ、質の保証のためのフォローアップミーティングはオンラインにより8月、10月、12月、1月と4回実施しました。

地域	実施時期	対象者	実施主体機関
北海道	9月~12月	4名(養育里親2名、養子縁組2名)	里親支援機関
青森	5月~8月	7名(養育里親6名、養子縁組1名)	乳児院
岩手	前期5月~7月 後期9月~11月	6名(養育里親4名、養子縁組2名) 2名(養育里親2名)	県福祉総合相談センター
茨城	9月~翌1月	6名(養育里親4名、ファミリーホーム1名、養育補助者1名)	子ども家庭支援センター
栃木	9月~12月	8名(養育里親5名、養子・養育里親3名)	里親支援機関
千葉	9月~12月	3名(養育里親3名)	里親支援機関
東京	9月~12月	5名(養育里親5名)	乳児院
神奈川	9月~12月	6名(養育里親4名、養子縁組1名、専門里親1名)	里親支援機関
新潟	9月~11月	5名(養育里親3名、養子縁組2名)	乳児院(県里親養育包括支援事業)
山梨	5月~7月	6名(養育里親4名、養子縁組1名、ファミリーホーム1名)	乳児院
長野	翌1月~3月	5名(養育里親3名、養子・養育里親2名)	乳児院
静岡	5月~7月	7名(養子・養育里親6名、専門里親1名)	里親支援機関・NPO法人
京都	10月~12月	3名(養育里親3名)	里親支援機関
大阪	前期5月~7月 中期9月~11月 後期翌1月~4月	6名(養育里親1名、養子縁組4名、ファミリーホーム1名) 4名(養育里親1名、養子縁組3名) 4名(養育里親1名、養子縁組1名、ファミリーホーム1名、補助員1名)	里親子支援機関・NPO法人
広島	10月~翌1月	6名(養育里親4名、養子縁組1名、親族里親1名)	乳児院
山口	9月~12月	5名(養育里親2名、施設職員3名)	県子ども家庭課
福岡	9月~11月	6名(養育里親3名、養子縁組2名、ファミリーホーム1名)	児童相談所・NPO法人
佐賀	4月~8月	5名(養育里親4名、養子・養育里親1名)	里親支援機関
大分	9月~翌2月	3名(養育里親3名)	乳児院

## フォスタリングチェンジ・プログラムの概要

フォスタリングチェンジ・プログラムは、アタッチメント理論、社会的学習理論、認知行動理論に基き、ペアレントトレーニングの考えも取り入れて1999年にロンドンのモーズレイ病院の専門家チームによって開発されたものです。その後、現場での実践と評価を経て2011年に改訂版のマニュアルが出版され、これに基づいた無作為化比較試験(RCT)が2012年に実施されました。社会的養護下にある子どものかかえる問題、特に様々な虐待の影響に配慮した子どもの理解とそれに基づく対応について、子どもの長所に焦点をあて、育み、認証し、実践的なスキルを学び、家庭で実践するプログラムです。効果的な褒め方やアテンディング、限界設定やタイムアウトなどについて学びながら実践し、里親自身が自分で考え対応できるようになることを目指すプログラムとなっています。

### プログラムの実施構成は、以下の通りである。

- 通常版  
週1回3時間、里親グループでのセッションを12回(約3か月)継続。  
対象者は、実際に2歳から12歳未満の里子を養育している里親12名まで。
- 思春期版  
週1回3時間30分、里親グループでのセッションを12回(約3か月)継続。  
対象者は、12歳以上から18歳未満の里子を養育している里親12名まで。
- 最低2名のファシリテーターが担当する。
- お茶やお菓子が用意され、温かい雰囲気のなかで実施される。

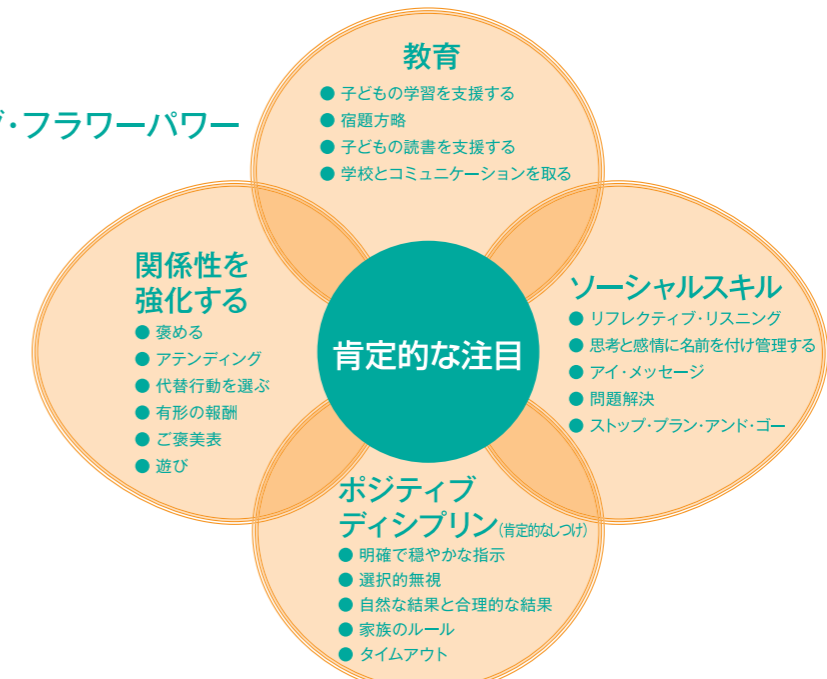
### プログラム内容は、以下のフラワーパワーに示されているような4つ要素からなっている。

- 通常版  
養育に最も必要な要素として「**温もり**」と「**観察**」が基本となり、中核に「**肯定的な注目**」がある。以下の①から④の順番でセッションが実施される。
  - ①**関係を強化する**～褒める、アテンディング(肯定的注目)、代替行動の選択、有形の報酬、ご褒美表、遊び
  - ②**教育**～子どもの学習の支援、宿題方略、子どもの読書を助ける、学校との連携
  - ③**ソーシャルスキル**～リフレクティブ・リスニング、考えと感情のラベリングと管理、アイ(私は)メッセージ、問題解決、ストップ・プラン・アンド・ゴー
  - ④**ポジティブ・ディシプリン(肯定的しつけ)**～明確で冷静な指示、選択的無視、自然な結果と合理的な結果、家族のルール、タイムアウト
- 思春期版  
養育に最も必要な要素として「**温もり**」と「**観察**」が基本となり、中核に「**ポジティブな世話/注目**」とともに、思春期特性への理解としてアタッチメントとレジリエンス(回復力)がある。以下の①から④の順番でセッションが実施される。
  - ①**関係を強化する**～褒める、1対1の時間、代替行動を選ぶ、有形の報酬、ポイント・チャート
  - ②**教育**～子どもの学習支援、読書、宿題や勉強を行うことを激励する、学校とコミュニケーション、アイ・メッセージ
  - ③**ソーシャルスキル**～リフレクティブ・リスニング、思考と感情に名前を付け管理する、問題解決、ストップ・プラン・アンド・ゴー
  - ④**ポジティブ・ディシプリン(肯定的しつけ)**～明確で穏やかな指示、選択的無視、自然な結果と合理的な結果、家族のルール、外出禁止、家事、検査は禁止

### さらに、プログラムの特徴として以下の点があげられる。

最初にファシリテーターとなる担当者が里親宅を個別に訪問し既定の聞き取りを実施し、その情報をグループでのセッションに生かすなど、個別訪問による事前の関係づくりによってプログラムへの里親の参加・継続率が高く維持されている。各セッション終了時に里親からの評価が行われ、相互性のあるプログラムとなっている。里親は基本的に一人の子どもの対象に行動観察、プログラムの演習・実践を施行するが、他きょうだいにも並行して応用することが可能である。また、子どもの行動やアタッチメントなどについて、事前事後の評価を行うことができる。

### フォスタリング・フラワーパワー (通常版)



### フォスタリング・フラワーパワー (思春期版)



## フォスタリングチェンジ・プログラム in 北海道

社会福祉法人常徳会 興正フォスタリングセンター 統括責任者・心理訪問支援員 小野 実佐  
社会福祉法人常徳会 興正フォスタリングセンター 里親トレーナー 佐藤 慧

- 【実施主体】 社会福祉法人常徳会 興正フォスタリングセンター
- 【実施期間】 2022年9月16日～12月9日(毎週金曜日) 10:00～13:00
- 【実施場所】 社会福祉法人常徳会 児童養護施設 興正学園 図書館
- 【参加里親】 4名(養育里親2名、養子縁組2名)  
出席率98%
- 【実施体制】 ファシリテーター2名、スタッフ2名
- 【フォローアップ】 2023年1月27日(金)10:00～12:00



### 実施状況

今年度は養育里親3名、養子縁組2名の計5名で始めたが、里子の体調不良が理由で急遽キャンセルとなり、セッション2以降から4名で実施している。

コロナ禍の影響を強く受け、ファシリテーターも交代でコロナに罹患、参加者や里子も罹患、また、里子が在籍するクラスの学級閉鎖などが相次ぎ、特にセッションの後半は、会場とオンライン受講のハイブリット型にしたり、オンラインで行うなど、毎回欠席者が出ており、終始全員が会場にそろえようとした日が続いた。最終的には、すべてのセッションに出席できた方は1名のみであった。

### プログラム時に工夫したこと

ファシリテーターがコロナに罹患した際は、補助スタッフがファシリテーター資格を持っていたため、急遽代役をお願いしてセッションを実施、またはオンラインで対応することで欠席を減らすことが出来るよう工夫した。

セッションの理解スピードが参加者によって差があったため、理解できているかを確認しながら実施した。また、必要に応じて参加者から出てきたエピソードを利用したロールプレイを行い、参加者にスキルの理解を促した。

### まとめと課題

今回の実施方法について、本来であれば延期するなどの選択も必要であったと思われるが、コロナ禍で延期した

としても次回開催の目途が見えない状態であったため、今年度の開催の形は苦渋の選択であった。ファシリテーター資格を所持しているとはいえ急遽の代役であったため、参加者と事前家庭訪問からセッションを通して信頼関係を築きつつあるファシリテーターの欠員の影響は大きく、セッションの進行・参加者の細やかな様子や変化への気づきなど、配慮が足りていないと感じられるセッションもあった。

参加者からは「困っていたことが困らなくなった」「困っていることは私の課題だとわかった」という声が聞かれ、最終的に参加者のプログラム参加に関する満足度は高く、これまで実施した参加者と比較すると、里親自身の自己理解が進んだこと、今後の相談支援関係の礎になったという点では遜色はなかった。

しかし、急な場合に備え、ファシリテーターは可能であれば2名以上最初から配置しておくこと、ハイブリット型では参加者同士の交流に限界があり、オンラインと対面の会場を二極化することは避ける必要があることを強く実感した。



## フォスタリングチェンジ・プログラム in 青森

社会福祉法人藤聖母園 若葉乳児院フォスタリングわかば 小笠原 真寿美  
社会福祉法人七戸美光園 児童養護施設美光園 木村 優

- 【実施主体】 社会福祉法人藤聖母園 若葉乳児院 フォスタリングわかば
- 【実施期間】 2022年5月24日～8月30日(毎週火曜日) 9:30～12:30
- 【実施場所】 社会福祉法人藤聖母園 旧マリア修道院1F 食堂
- 【参加里親】 7名(養育里親6名、養子縁組1名)  
出席率96.4%
- 【実施体制】 ファシリテーター2名、里親支援専門相談員、保育士(毎回2～4名)



### 実施状況

これまでコロナ感染の影響で実現できず、今年度が初めての実施となった。青森県でファシリテーターは2名のみの為、1名は毎週遠方から通った。毎週順調に進行していたが、最後の12セッションを迎える際に、ファシリテーターの1名がコロナ濃厚接触者となってしまった。その為、日程が延びたが、無事に全セッションを終了することができた。

### プログラム時に工夫したこと

●コロナ感染予防のため、各自体調の管理、検温、マスク着用、手指の消毒等を徹底した。

また、水分補給やお菓子の個別包装など、休憩についても工夫した。

●初めての実施のため、里親の中でも信頼のあるベテラン里親を選定した。

●課題の振り返りの際は、出来たことと困難だったことを話してもらい、一つずつ皆で共有した。また次の課題の内容を、各自がきちんと理解できるようにファシリテーターがモデルになって示した、また里親同士が、ロールプレイで一度練習してから家庭で実践できるように配慮した。

●小さな疑問や分からないことは、出来るだけそのままにせず、皆で考えるようにした。

### まとめと課題

●プログラムを進めていく中で、受講者各自の家庭でスキルを実践し、その結果をお互いに発言し合うことによって、それまでの子どもたちへの見方や対応の仕方が、良い方向へ変化していったことを感じた。また参加した里親同士で共通の話題ができるようになり、つながりが更に深まったように思う。

●ファシリテーターが2名のみの為、不測の事態になった場合などを考え、増員できればと思っている。また受講した里親にも協力を求めながら、今後活動を続けていきたい。



## フォスタリングチェンジ・プログラム in 岩手

和光学園 斎藤 あずさ 遠藤 咲乃 みちのく・みどり学園 高橋 伸広  
善友乳児院 阿部 恵 佐々木 貴保 清光学園 高橋 佑太  
日赤岩手乳児院 鈴木 佐紀子

- 【実施主体】 岩手県福祉総合相談センター
- 【実施期間】 前期2022年5月11日～7月27日(毎週水曜日) 9:30～12:30  
後期2022年9月6日～11月22日(毎週火曜日) 12:30～15:30
- 【実施場所】 前期 岩手県福祉総合相談センター／後期 岩手県奥州市水沢地区センター 他
- 【参加里親】 前期 4組6名(養育里親4名、養子縁組里親2名) 出席率95%  
後期 2組2名(養育里親2名) 出席率100%
- 【実施体制】 前期 ファシリテーター4名、スタッフ2～3名、児相職員1～2名  
後期 ファシリテーター5～7名、児相職員2～3名
- 【フォローアップ】 前期 10月26日／後期 2月27日

### 実施状況

岩手県初開催。前期は盛岡市、後期は奥州市で、それぞれのエリアを管轄する児相から参加里親を募った。終了3か月後にフォローアップを実施している。

昨年度は、開催案内の送付だけでは応募がなかったことから、今年度については、里親会へ協力を依頼し、各支部のイベントや研修会等でミニセミナーを開催。また登録前研修Iの一コマでは、FCPデモンストレーションを二年連続実施している。

### プログラム時に工夫したこと

セッション前日にスタッフMTG(WEB)を開催し、前回セッションの振り返りと次回セッションの流れの確認を行った。参加里親が、より理解しやすいような工夫として、満遍なく意見を出し合えるペアやグループの作り方、言葉の伝え方について時間をかけて話し合いを行った。特に後期は、参加里親2名という少人数であった為、意見の出しやすさ、ロールプレイのやりやすさに重点を置いた。



また、家庭での実践内容と、セッション内の様子や発言を記録して変化を追うことで、携わるスタッフ全員が、参加里親の様子を共有しサポートすることが出来た。

### まとめと課題

コロナ禍でファシリ確保が課題であったが、9月には新たに4名がファシリを取得。所属する施設での感染状況を逐一共有し、誰かが欠けても完璧に補い合える素晴らしいチームプレーが実現できた。また、参加里親含め携わる全員が強いきずなで結ばれ、セッションがほっと一息つける温かい時間となった。

今後の課題としては、県土が広く参加里親・スタッフともに移動への負担が大きいことから、開催場所の工夫が必要である。応募については、PR活動により徐々に周知が図られてきている実感はあるが、実際に参加して貰うために引き続き工夫を凝らして実施していきたい。



## フォスタリングチェンジ・プログラム in 茨城

会福祉法人茨城県道心園 児童養護施設道心園東ホーム 施設長 笹川 寛  
子ども家庭支援センター「どうしん」 里親トレーナー 西野 聡美  
社会福祉法人誉田会 地域家庭支援センターほまれ 里親トレーナー 片根 志雄  
社会福祉法人誉田会 児童養護施設誉田養徳園 里親支援専門相談員 及川 かほり

- 【実施主体】 社会福祉法人茨城県道心園 子ども家庭支援センター「どうしん」
- 【実施期間】 2022年9月21日～2023年1月28日(毎週水曜日)10:00～13:00
- 【実施場所】 社会福祉法人茨城県道心園 地域交流スペース
- 【参加里親】 6名(養育里親4名、ファミリーホーム1名、養育補助者1名) 出席率90%
- 【実施体制】 ファシリテーター4名
- 【フォローアップ】 2023年2月15日(水) 10:00～12:00 2018年から全期生対象



### 実施状況

今年度は、新たにファシリテーター2名が加わり4名での実施。ファシリテーターの勤務地が離れていることもあり、事前に1セッションごとの内容を細分化し、担当分けをするなどの協力のもと12セッションを実施。本年度も、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、セッションが延期になる等、予定通りに進めることは難しかったが、参加された皆さまからのご理解もいただき、無事に終了することができた。

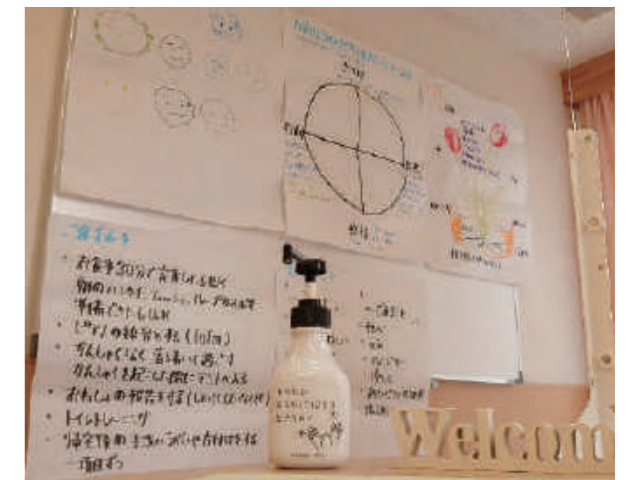
### プログラム時に工夫したこと

新型コロナウイルス感染症対策として、昨年度と同様に会場での積極的な飲食はせず、ペットボトル飲料と、個包装のお菓子をそれぞれラッピングで対応した。参加された里親同士での交流が深められることで活発な発言へと繋がるため、座席は毎回ファシリテーターが事前に決め、関係性や積極性を考慮しながら進めるよう努めた。

### まとめと課題

参加された方の多くは、未委託時から多くの研修に参加されていたりしゃる方ばかりであり、ファシリテーターとの接点も多かったため、グループの創設は比較的スムーズな印象であった。各セッションでは、これまでの養育状況と照らし合わせながら、目の前の課題について、とても真摯に向き合われており、徐々に変化していく里子の様子や里親自身の姿を実感されていた。

セッション終了時には、里母間で連絡先を交換しており今後の繋がりに期待を持たれていた。



## フォスタリングチェンジ・プログラム in 栃木

栃木フォスタリングセンター 畠山 憲夫(養育里親) 赤羽 朋子  
 児童養護施設さずな 堀江 美景(養育里親)  
 児童養護施設桔梗寮 伊藤 幸恵  
 認定NPO法人だいじょうぶ 畠山 由美(養育里親)

- 【実施主体】 栃木フォスタリングセンター
- 【実施期間】 2022年9月6日～12月6日(毎週火曜日) 10:00～13:00
- 【実施場所】 とちぎ福祉プラザ(栃木県宇都宮市)
- 【参加里親】 8名(養育里親5名、養子・養育里親3名)  
出席率85.44%
- 【実施体制】 ファシリテーター5名 保育2名



### 実施状況

栃木県で2回目の実施。ファシリは1回目と同じメンバーで、チームワークも良く実践に臨んだ。

参加者は養育里親のうち、既に特別養子縁組の子を養育しながら、更に養育里親として里子を養育中の里親が3名加わる。ベテランの里親から委託後わずか1ヶ月の新しい里親さんも参加され、毎回話が弾み交流が深まった。

### プログラム時に工夫したこと

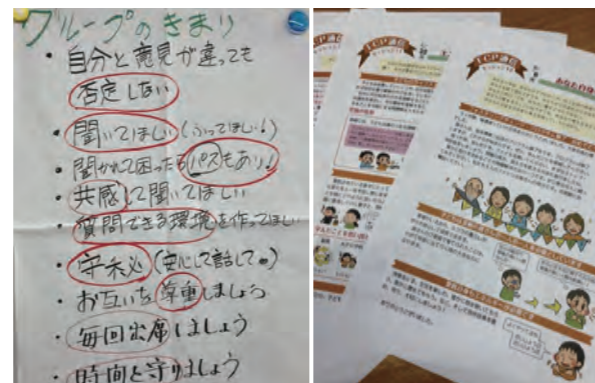
- リラックスできる時間となるように、温かい会場の雰囲気作り、楽しく選べるお菓子やドリンクの他に持ち帰れる軽食を用意した。
- 毎回セッションをわかりやすくまとめた通信を配布した。



- 欠席者には、配布プリントをレターパックで送り、オンライン(Zoom)でフォローを行った。
- セッション終了後に時間を十分に取し、振り返り、翌週の打ち合わせや役割分担を行った。

### まとめと課題

参加者は、他の里親の話や聴く時間を楽しみにしており、意見交換や交流の時間ももっと欲しいとの希望があった。また、プログラムを時間通りに終えるために、急いで説明を終わらせる場面もあった為、今後は時間を延ばす事も視野に入れ、もう少しゆとりのあるプログラム展開を考えていきたい。



## フォスタリングチェンジ・プログラム in 千葉

ほうゆうキッズホーム 馬場 敏 林 美緒  
 晴香園 門馬 真之  
 子山ホーム 柴田 弘子

- 【実施主体】 千葉県児童福祉施設協議会 里親支援専門相談員会
- 【実施期間】 2022年9月14日～12月7日(毎週水曜日)10:00～13:00
- 【実施場所】 蘇我コミュニティーセンター
- 【参加里親】 3名(養育里親3名)  
出席率86%
- 【実施体制】 ファシリテーター4名、スタッフ1名、オブザーバー1名、
- 【フォローアップ】 2023年3月14日

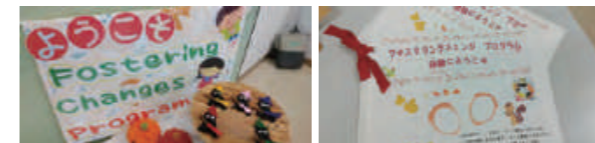


### 実施状況

- 当初は、受講希望者が集まらず、縁組里親夫婦2名と養育里親2名の計4名の申し込みであった。そこで里親支援機関職員に声をかけ、オブザーバーとして全セッションへの受講参加をお願いした。また、家庭訪問の日程調整の時点で、縁組里親夫婦とは連絡が繋がらず、そのままプログラム初日を迎えることになった。(養育里親2名とオブザーバーの計3名で開始)
- 受講者が少ない為、受講生が知り合いの里親に声掛けをし、体験参加者を含め3名の追加申し込みがあった。そのうち1名がセッション2から最終セッションまで継続して受講することができた。

### プログラム時に工夫したこと

- 受講申し込みが少なかったため、支援機関職員に声をかけ、オブザーバーとしてプログラム全セッションへの参加をお願いした。
- 受講生から挙げた声を受け止め、希望に添える提案については取り入れるようにした。
- 次年度以降の受講につなげるため、体験希望者にも出席カードを作成し手渡した。



### まとめと課題

- 受講生を募集するため、オンライン体験版を計画してみたが、申し込みがなく実施できず。募集方法、受講希望者を増やすための活動・体制づくりが課題である。
- 仕事をしている里親から、欠席したセッションについてフォローアップ時間の確保が難しいとの訴えがあった。フォローアップ方法や時間設定が課題である。
- 千葉県全域からの受講できるようにと考え、県中心部の会場で実施したが、申し込みのあった継続して受講した里親は、会場から距離的に近い方のみであった。実施場所の選定が課題である。
- ファシリテーターが、プログラムに集中できない事情を抱えている状態で実施に踏み切ったため、良好なチームワークで臨むことが出来なく、その影響が出てしまった。安定して実施が出来るファシリテーターのチーム体制づくりが課題である。



## フォスタリングチェンジ・プログラム in 東京

社会福祉法人二葉保育園 二葉乳児院 長田 淳子 宮内 珠希 長谷川 優子 佐藤 裕子 原 裕子

- 【実施主体】 社会福祉法人二葉保育園 二葉乳児院
- 【実施期間】 2022年9月9日～12月8日(毎週木曜日) 10:00～13:00
- 【実施場所】 社会福祉法人二葉保育園 法人本部会議室
- 【参加里親】 5名(養育里親5名)  
出席率93%
- 【実施体制】 ファシリテーター4名、スタッフ1名、オブザーバー1名、
- 【フォローアップ】 半年後に1回程度実施予定



### 実施状況

コロナ禍ではあったが、事前の過程訪問についても直接訪問を行い、ご家族の状況把握を行った。15分の休憩時の茶菓についても、提供は行ったが個包装でお渡しし、それぞれの判断におまかせした。参加者は、休憩用のテーブルに着席し、歓談されるなどして過ごされた。

参加率も高く、また、参加者が5名と少人数であったので、質疑応答の時間を多く持つことが可能となり、丁寧に振り返りを行った。新任のファシリテーターがいたため、経験者と組む形でフォローすることができた。

### プログラム時に工夫したこと

家庭での実践など振り返りの時間を丁寧に扱った。また、少しわかりづらい理論的なところでは、キーワードごとにまとめを作って貼り出すなど、理解できるよう配慮した。

### まとめと課題

コロナ禍ではあったが、感染症対策に配慮しながら実施した。事前に訪問を行ったことを、ファシリテーター間で共有し、座席の配置など工夫した。



## フォスタリングチェンジ・プログラム in 横浜

一般社団法人 こどもみらい横浜

- 【実施主体】 こどもみらい横浜(横浜市委託事業)
- 【実施期間】 2022年9月9日～12月1日(毎週木曜日)10:00～13:00
- 【実施場所】 横浜万国橋会議センター
- 【参加里親】 6名(養育里親4名、専門里親1名、縁組里親1名)、横浜5期生 ファシリテーター3名  
福島 里美 (こどもみらい横浜:臨床心理士、公認心理師)
- 【実施体制】 野澤 実希 (こどもみらい横浜:臨床心理士、公認心理師)  
中山 貴詞 (こどもみらい横浜:社会福祉士)
- 【フォローアップ】 2022年12月15日(木) 10:00～13:00 4期生 2023年2月2日(木) 10:00～13:00 5期生

### 実施状況

●コロナ禍での感染対策をしながらのセッションではあったが、回を重ねるごとにFCP受講者同士が打ち解け、里親サロンでも話せない内容を共有することができた。

●各里親の課題に対して、参加者全員が親身になり傾聴する姿勢があり、それぞれの経験から、よりよく関わるためのアドバイスをする場面が多く見受けられた。

●FCPのセッションのみでは対応が困難な内容に対しては、福島心理士が中心となり具体的なアドバイスを行うことで、寄り添いながら解決に向かうことができた。

### プログラム時に工夫したこと

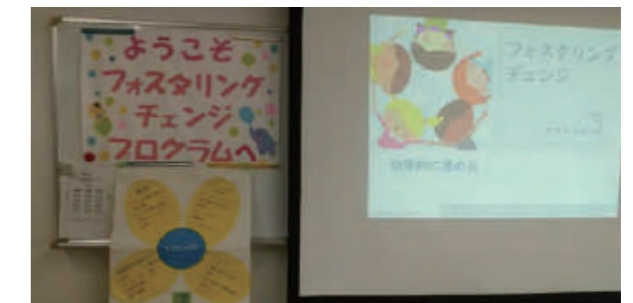
●感染予防のため、広い会議室の確保、検温、マスクの着用、手指消毒の徹底を行った。

●困難な課題を抱えている里親に対する対応策について、振り返りの場面で情報交換を行った。

●明るい気持ちで参加できるように、会場の装飾の工夫をした。

### まとめと課題

●2回以上の欠席者が2名いたが、資料の郵送と電話でのフォローを行い、欠席した回の内容について充分理解されている様子が伺えた。  
中学生を養育する参加者に対しても12+ではなく、今回のプログラム内容で充分に対応できていた。





## フォスタリングチェンジ・プログラム in 新潟

社会福祉法人新潟カリタス会 聖母乳児院 阿部 由希子 本田 美香 長谷川 映美

- 【実施主体】 社会福祉法人新潟カリタス会 聖母乳児院(新潟県里親養育包括支援事業)
- 【実施期間】 2022年9月6日~11月22日(毎週火曜日) 10:00~13:00
- 【実施場所】 カリタス会見附地域支援センター
- 【参加里親】 5名(養育里親3名、養子縁組2名)  
出席率93.33%
- 【参加体制】 ファシリテーター3名



### 実施状況

●これまでフォスタリングチェンジ・プログラム体験版を2年間実施し、今年度は正規セッションを初めて実施した。県内全域の対象となる里親家庭に児童相談所を通して開催案内を送付し、5名が参加された。セッションを重ねる毎に受講者同士が打ち解け、後半のロールプレイやグループワークでは、積極的な意見交換ができた。お子さんの体調不良等で、やむを得ず欠席された方には後日補習を行うことで、全員が最後まで乗り切ることができた。

### プログラム時に工夫したこと

- 参加者の中には、2歳のお子さんを養育中の里親さんが2名おり、セッションが進むにつれ実践に繋げることが難しい課題もあったため、発達や理解度に合わせた課題を一緒に考え取り組んで頂いた。
- ロールプレイの事例も発達段階に合わせた内容に変更し、実践に繋げることが出来るよう配慮した。
- セッションの復習を毎回まとめ、次のセッションの時に配布した。



●参加者全員が未就学児を養育中の里親さんであり、保育園等の送迎の理由で、終了後すぐに帰られる方が多かった為、プログラム終了後に日を改めてお疲れ様会を行った。

### まとめと課題

- 参加者が思うように集まらなかった為、施設から里親委託された里親さんに家庭訪問等で再度声を掛け、なんとか5人集めることができた。来年度は募集時期や募集の仕方について検討が必要。
- ファシリテーターが3人とも同じ施設の職員だったので、時間が空いた時に打ち合わせを行うことが出来た。また、今年度は他の事業や里親マッチングケースが多かった為、予定していたスケジュールで準備することが難しく、しっかりと内容を頭に入れることが出来ないまま実施してしまったこともあり、参加者に迷惑をかけてしまった。
- 今回は託児の案内がなく、参加者の中には未就園児もいた為、お子さんの預け先に困っている方もいた。
- 今年度、新潟市児相職員2名がファシリテーター養成講座を受講したと聞いているので、来年度は新潟市とも協力しながら開催したいと考えている。

## フォスタリングチェンジ・プログラム in 山梨

エール里親支援室 大原 恵美子 伊藤 真奈美 市川 千絵  
中央児童相談所 安留 昭人  
くずはの森 田村 由美子

- 【実施主体】 子育て・発達の里 エール里親支援室
- 【実施期間】 2022年5月6日~7月22日(毎週金曜日) 10:00~13:00
- 【実施場所】 エール里親支援室 会議室
- 【参加里親】 6名(養育里親4名、ファミリーホーム1名、養子縁組1名、)  
出席率88.5%
- 【実施体制】 ファシリテーター5名(兼務)、スタッフ1名、
- 【フォローアップ】 2022年11月18日(金) 10:00~13:00



### 実施状況

山梨県では、6回目の実施である。10月の「全国里親大会」の開催県となっている関係から、例年だと9月から実施していたが、5月からの開始とした。新学期間もないことから、保育園や学校行事と重なる里親も多かった。対象は3才~10才児で、ベテラン里親と経験年数が浅い方とのバランスは良かった。新人ファシリテーターが補助者として入った。

### プログラム時に工夫したこと

山梨県内における新型コロナ感染拡大の影響を受けて、各セッションの全員出席も難しく、感染予防の観点から、ロールプレイ等においても制限が課された中での実施となった。そんな状況でも、常に笑い声が絶えない、とても明るく活気ある雰囲気の中で実施することができた。終了後も参加された里親さん同士で、LINEを通じてコミュニケーションを図られており、良い交流の場となったことが窺われる。



### まとめと課題

当県は2017年から本プログラムを開催してきたので、これまでの経験から3点工夫した。  
1点目は、研修参加者を主催者側から指定したことである。日頃の支援から、里親子の状況は把握できていたため、本プログラムを受講してほしい里親に参加を促した。  
2点目は、グループワーク時の里親のペアを適宜変えたことである。例えば、グループワークの内容から里子の年齢が近い方をペアにしたり、ベテランとビギナーをペアにするなどの工夫を行った。  
3点目は、欠席者へのフォローを丁寧に行ったことである。ファシリテーターの訪問によるフォローに加え、家庭での実践のフィードバックを活用し、欠席者がスムーズにセッションに入っていけるようにした。



## フォスタリングチェンジ・プログラム in 長野

うえだみなみ乳児院フォスタリングチーム 竹内 芳美  
うえだみなみ乳児院フォスタリングチーム 大川 裕里恵

- 【実施主体】 うえだみなみ乳児院フォスタリングチーム
- 【実施期間】 2023年1月5日～3月30日(毎週木曜日) 10:00～13:00
- 【実施場所】 上田市創造館(10回)／古民家chairo(2回)
- 【参加里親】 5名(養育里親3名、養子縁組2名)  
出席率91%
- 【実施体制】 ファシリテーター2名、スタッフ2名



### 実施状況

コロナ禍もあり、3年ぶりの実施となった。児童相談所に協力をいただき、現在里子を委託中で、初めてプログラムを受講する方で公募を行った。冬の開催という事もあり、雪の関係で参加したいが参加出来ないという方もいたが、5名の参加者で開催する事が出来た。最終日にはプログラム終了後、カフェで食事会を行った。

### プログラム時に工夫したこと

コロナ感染対策の観点では検温消毒換気を行ない、プログラム中飲み物は準備したが、お菓子は持ち帰り用として準備をした。会場に関しては、通常の会場が2回のみ借りることが出来なかったため古民家を借り、いつもと違う雰囲気ですり親さんにソファーに座ってもらい、リラックスしながら参加していただけた。

プログラム時工夫した事は、プログラムに出てくる用語一覧表を毎回張り出すようにし、参加者の理解につなげられるようにした。また家庭の実践のフィードバックで、

里子の今抱えている問題をどう対処していいかわからない等の話が出た際は、できるだけ参加者の方に話を振って、グループ全体で考える事ができるよう配慮した。

### まとめと課題

プログラムを実施してみて、参加者5人中3人が日頃から支援している家庭だったので、里親子の状況もよく分かっており、プログラムの中でより具体的に、その子に合うスキルなどを話すことができた。里子の成長を里親同士が喜び合い悩みを共有し、どうしていったら良いか考える場面が多くあり、里親同士の絆が深まっていくのを感じた。プログラム中から里親同士で食事に行くなど、終了後も集まってランチをしたとの報告があった。

参加者から意見としてプログラムに出てくる用語や内容の理解が難しいという話があり、ファシリテーターが分かりやすく、かみ砕いて伝えていく必要があると感じた。他にはプログラムに参加して癒された、子どもを観察する事が多くなり肯定的な関わりが増えたなどの感想もあり、3年ぶりに実施が出来、良かったと感じている。



## フォスタリングチェンジ・プログラム in 静岡

NPO法人 静岡市里親家庭支援センター 佐野 多恵子 トマジ 里絵 清水 道弘

- 【実施主体】 NPO法人 静岡市里親家庭支援センター
- 【実施期間】 2022年5月10日～7月19日(毎週火曜日) 9:30～12:30
- 【実施場所】 静岡市児童相談所内 大プレイルーム
- 【参加里親】 7名(養育・養子縁組里親6名、専門里親1名) 出席率93%
- 【実施体制】 ファシリテーター3名



### 実施状況

2017年の初回開催から年1度の実施を継続してきたが、2020年～2021年の2年間は新型コロナの対策として中止を余儀なくされた。静岡市は体系別研修プログラムにFCPを組み込んであることから、就園後から小学校中学年までの里子(養子)を養育中の里親を対象に7名が参加する運びとなった。各研修における参加対象年齢を明確にしてあるため、里親は養育中の子どもの年齢でFCP受講のタイミングは見通せる仕組みである。

### プログラム時に工夫したこと

養育・養子縁組里親の参加者6名のうち、5名が特別養子縁組をしている。社会的養護(出身)のこどもであるという点では、参加者がFCPで使う各方略とも有効であり効果を発した。ただ、ファシリテーターは、それぞれの子どもの縁組に至る経緯や状況、現在の様子などを把握した上で、プログラム中は、その子どもの状態に適した言い回しに都度変えた。また家庭での実践では、ひとりひとりがより身近に我が事として取り組めるような内容にアップデートした上で持ち帰ってもらう工夫をした。

### まとめと課題

CPが実施できなかった2年間、先輩里親から聞いていたFCPの順番がまわってくるのを心待ちにしていた里親は大勢いる。またFCP修了者はFCP12+に期待をよせている。そういった声を聞くにつれ、静岡市の里親の中にFCPが根付き、学んだ方略が自然と養育にいかされていることを実感する。

このコロナ禍にあたり、これまでのようなプログラム終了後の個別面談や、フォローアップセッション(2回)の計画が立てづらく未実施であること、また、これまで前年の参加者がオブザーバー兼アシスタントとして参加してきたが、同じ様にすることができない歯痒さはあるものの、まずは今年度FCPを開催できたことは、とても意味のあることだったと思う。



## フォスタリングチェンジ・プログラム in 京都

社会福祉法人 積慶園/きょうと里親支援・ショートステイ事業拠点(ほっとはぐ) 武田 由  
社会福祉法人 積慶園/きょうと里親支援・ショートステイ事業拠点(ほっとはぐ) 藪下 聡美

- 【実施主体】 里親サポートセンター青い鳥
- 【実施期間】 2022年10月4日~12月20日(毎週火曜日) 9:30~12:30
- 【実施場所】 きょうと里親支援・ショートステイ事業拠点(ほっとはぐ)
- 【参加里親】 3名(養育里親3名)  
出席率97%
- 【実施体制】 ファシリテーター2名
- 【フォローアップ】 3/16(2期生(R2年度))、3/20(1期生(R1年度))、3/30(3期生(R3年度))



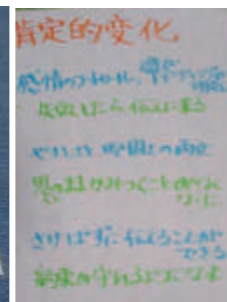
### 実施状況

今年度は1回の実施となり、3名の受講者が修了した。参加者は同年齢を養育中の里親であったため、互いに想像しやすい面も多く「うちだけじゃないんだ」と思える機会を持つことができ、同じところで感じることや困難な側面を共有することができた。

ここ数年はコロナ禍でフォローアップが難しかった、1期生~3期生のフォローアップを年度末に1回ずつ行った。

### プログラム時に工夫したこと

参加者について、配偶者がそばにいる・いないや、仕事や周囲の環境等、それぞれが全く異なる環境であったため、家庭での実践や、発表の際にクローズアップされる内容によっては、特にしんどさを抱えておられる里親への配慮が必要であり、プログラムの開始前や終了後にフォローを行った。



### まとめと課題

本プログラムは、回を重ねるごとにグループ成員間の信頼関係が深まり、また実践を重ねていく中で里親との関係性が好天的に変化し、里親からの里子へのかかわり方において里親自身の変化に気付かれることが多い。今回は、3名中1名は確実に大きな変化が見られたが、他2名は、多忙を極める日常の中、里親の性格も相まって劇的ではないものの、少しの変化が見られた。今後も、フォローアップを継続して実施していくことが必要と思われる。

## フォスタリングチェンジ・プログラム in 大阪

里親子支援機関えがお 牧野 博子  
児童養護施設 南河学園 横山 泰直  
児童養護施設 大阪西本願寺常照園 高橋 宗近

- 【実施主体】 NPO法人 里親子支援機関えがお
- 12歳以下**
- 【実施期間】 2022年5月12日~7月27日(毎週木曜日) 10:00~13:00
- 【実施場所】 泉の森ホール(泉佐野市)
- 【参加里親】 6名(養育里親1名、養子里親4名、ファミリーホーム1名、) 出席率93%
- 【実施体制】 ファシリテーター3名、スタッフ2名、オブザーバー5名
- 12歳以上①**
- 【実施期間】 2022年9月12日~11月27日(毎週月曜日) 10:00~13:45
- 【実施場所】 煉瓦館(熊取町)
- 【参加里親】 4名(養育里親1名、養子里親3名) 出席率97%
- 【実施体制】 ファシリテーター3名、スタッフ1名、オブザーバー5名
- 12歳以上②**
- 【実施期間】 2022年1月16日~4月3日(毎週月曜日) 10:30~14:00
- 【実施場所】 ファミリーホームなかよし(豊中市)
- 【参加里親】 4名(養育里親1名、養子里親1名、ファミリーホーム1名、補助員1名) 出席率96%
- 【実施体制】 ファシリテーター3名、スタッフ1名、オブザーバー2名



### 実施状況

2022年度は5月、9月、1月と3期にわけて12歳以下(通常版)、12歳以上を開催する。3回ともアンケート調査を基にした出張研修を開催し、遠方で参加できなかった方のニーズに応えた。

### プログラム時に工夫したこと

コロナ禍のなかで現地参加が難しい方にはZoom参加を試み、それを含めると100%に近い出席率であった。時間管理にタイマー2個を用いたスムーズな進行を試み



た。スタッフに修了生で入ってもらうことで、受講者に寄り添うことを意識した研修を行うことができたことも大きい。

### まとめと課題

2022年度、より多くの参加者を募集していくため、大阪府里親会会員全世帯にアンケートを実施し出張研修を行うに至った。修了後には食事をとりながらのお祝いも開催することができた。研修の意義を里親支援関係者に知ってもらうため、行政と連携し40人ほどに簡易版FCPを開催した。今後FCPが里親支援の共通言語になるように、更なる仕組みを構築していく必要がある。

## フォスタリングチェンジ・プログラム in 広島

広島修道院きずなの家 前田 佳代  
 広島乳児院 藤本 真紀 大田 直枝

- 【実施主体】 広島県西部こども家庭センター 広島市児童相談所
- 【実施期間】 2022年10月7日～2023年1月13日(毎週金曜日) 10:00～13:00
- 【実施場所】 広島修道院
- 【参加里親】 6名(養育里親4名、養子縁組1名、親族里親1名)  
出席率90.2%
- 【実施体制】 ファシリテーター3名、スタッフ2名、オブザーバー1名、保育1名
- 【フォローアップ】 2023年3月10日

### 実施状況

広島県西部こども家庭センターと広島市児童相談所の共催で、今年度4回目の開催となった。ファシリテーターの有資格者が施設内に5名おり、そのうち3名が今年度のファシリテーター、2名がスタッフとして入り開催した。開催前日に綿密な打ち合わせをすることにより、まずはファシリテーター内でセッション内容を吟味することができ、より充実した内容を参加者にお届けすることができた。

### プログラム時に工夫したこと

- 感染症対策(実施時期を10月からにした・講堂での実施・マスク)。
- 事前の家庭訪問で、茶菓の好みを聴き取り、それを加味した茶菓を提供した。
- フォスタリング相談室が、連絡調整役(事務局機能)となり、主催者との連絡や準備物用意の参加(欠席)調整を担ったので、運営がスムーズだった。
- ご夫婦1組参加。家庭訪問時に夫婦の関係性のアセスメントを丁寧にした(発言量などフェアな関係性かどうか)。
- 欠席者へのフォローを、オンラインまたは対面にて次回開催までに丁寧に(#4 アテンディングのロールプレイ・フリップチャートをPPに入れ込んで実施内容を説明し発言を書き入れた)実施した。
- 天候(大雪)をみて、セッション11をオンライン実施に切り替えた。

### まとめと課題

- 〈まとめ〉
- 事前家庭訪問のおかげで、初回参加から「参加しやすい雰囲気」「次回も期待」との声があった。
  - 里父2名の参加で、多面的な意見交流ができた。
  - モチベーションの高い里父母の参加であった為、回を重ねるごとに親和性が高くなり、講義内容の深い理解につながる意見交流が盛んであった。
- 〈課題〉
- フォローアップが丁寧だったので、かえって欠席の可能性を高めたかもしれない。
  - 開始時期がずれ込んだため、年をまたいでしまった。
  - 修了式、工夫をもう少しするべきだった。(一人ひとりへの言葉かけを修了証渡しの際に盛り込む等。事後評価表の回収の難しさ。)



## フォスタリングチェンジ・プログラム in 山口

ライクホームはるか 新谷 敏郎  
 共楽養育園 永吉 敦子 山口育児院 中内 圭一  
 里親養育サポートセンターれりーふ 小林 有 田坂 仁 藤井 有紀

- 【実施主体】 山口県こども家庭課
- 【実施期間】 2022年9月9日～12月2日(毎週金曜日) 10:00～13:00
- 【実施場所】 社会福祉法人 防府海北園 地域交流スペース真
- 【参加里親】 5名(養育里親2名、施設職員3名)  
出席率95%
- 【実施体制】 ファシリテーター6名(セッション担当3名、サポート1名、オブザーバー2名)
- 【フォローアップ】 2022年6月17日(金)(2021年度修了生)  
2023年3月3日(金)(2022年度修了生)

### 実施状況

全セッション対面での実施。里親4名、施設職員3名の計7名でスタート。1名の里親はセッション2から家庭の事情により欠席が続き、次年度に受講し直したいという希望で辞退された、もう1名の里親は体調不良で辞退となった、結果的に里親より施設職員が多い状況となった。

### プログラム時に工夫したこと

ファシリテーターが多い状況となったが、サポート役が資料や茶菓子の準備、ニュースレターの発行、全体のとりまとめ等を行ったことで、ファシリテーター3名がセッションの準備に集中することができた。また、内容を飛ばしそうになったり、内容が伝わりにく感じた時には、担当のファシリテーターへの助言も行った。

フィードバックの際、話す内容が少なく、指定した時間より早く話を終える方には、話し終えた後に、ファシリテーターから詳しく聞きたいと内容を掘り下げる声掛けや、他の参加者へ他にも良い方法はないか投げかけてみ

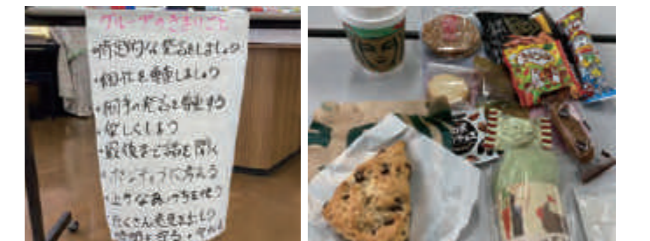


るなど、話している里親とファシリテーター双方だけのやり取りではなく、グループで一緒に考える雰囲気を作っていた。た。スタッフに修了生で入ってもらうことで、受講者に寄り添うことを意識した研修を行うことができたことも大きい。

### まとめと課題

里親の受講希望者が少なかったため、施設職員3名を含めて開始したが、最終的に里親より施設職員が多くなってしまった。里親と施設職員と一緒に受講することで、里親が施設職員のホームでの取り組みを聞き、里子に対しても使ってみたいと言われるなど、良い面もあったが、施設職員の参加の割合は多くならないよう今後、配慮したい。

欠席理由には、子どもが学校を欠席したため面倒を見なければならなくなったこと、コロナの濃厚接触者となったこと等、オンラインでなら受講できたと考えられるものであった。今後は、遠方の方の受講のしやすさや、感染症流行による対面実施困難時などを考慮し、オンライン実施も視野に入れていく必要性を感じた。



## フォスタリングチェンジ・プログラム in 福岡

福岡市こども総合相談センター 高橋 三津子 高橋 恵子(里親対応専門員)  
 (特)SOS子どもの村JAPAN 松崎 佳子 高瀬 明希 水本 有依(臨床心理士・公認心理師)

- 【実施主体】 福岡市こども総合相談センター(児童相談所)(特)SOS子どもの村JAPAN
- 【実施期間】 2022年9月1日~11月24日(毎週木曜日) 10:00~13:00
- 【実施場所】 #1~4 福岡市保健環境学習室 #5~12 福岡市こども総合相談センター
- 【参加里親】 6名(養育里親3名、ファミリーホーム1名、養子縁組2名)  
出席率94%
- 【実施体制】 ファシリテーター5名、補助スタッフ1名
- 【フォローアップ】 2016~2020年度受講生対象:2022年5月27日オンラインにて実施  
2022年度受講生対象:2023年2月17日

### 実施状況

今年度で、福岡市は6回目の実施となる。昨年度は、新型コロナウイルスの影響からプログラムとアフターセッションの開催が中止となった。今年度は、これまでの受講生を対象としたアフターセッションをオンラインにて開催し14名が参加した。プログラム実施は、新型コロナウイルス感染状況を鑑みて、協議を重ねて開催に至った。昨年度は開催が中止となったことから、今回は待ち望んだ形で、全員が自主的に参加された。参加者の中には養子縁組の方もおり、これまでとは違ったグループ編成となった。

### プログラム時に工夫したこと

温もり 今回の場所は、これまでの児相の家族療法室とは異なり他機関の研修室にて実施した。そのため、スタッフ同士で温かな雰囲気作りについて打ち合わせを行った。部屋の雰囲気作りとして、テーブルクロスやカラーマットの使用など、迎え入れる体制について考えた。また、養子縁組が参加することでの違いについて検討し、言葉の選択や説明の仕方を工夫した。その結果、参加者の方からは「初めは緊張していたのですが、ファシリテーターの全てを受け入れてくださる安心感の中で、発言もしやすく楽しく参加することができました」との感想が語られた。

ニュースレターの配布 家庭訪問の際に、参加者の方から「夫婦で参加したかった」との話があり、家族での共有や家庭での復習の材料としてニュースレターを作成した。ニュースレターは、プリント1枚で各セッションの内容が確認できるようになっている。その結果、フィードバックの際に、夫婦どのように共有したかが語られ、家族で家庭での実践ができたことや家族について話すことでグループの親和性が高まった。

休んだ時の対応 参加者に休みがあった場合は、翌週のプログラムに間に合うようにオンラインでの実施を行った。また、ニュースレターを活用することで、全体を把握して流れを伝えることができた。

### まとめと課題

アンケートの結果からは、家庭での実践報告の満足度が高いことが分かった。ファシリテーターによる温かな雰囲気作りが出来ていたことや、参加者のモチベーションが高かったことから、発言のしやすさや参加者同士が学び教え合う相互的なやりとりが多く満足感に繋がったと思われる。毎年挙がっているが、翻訳された専門用語について参加者の方へいかに分かりやすく伝えられるかが今後の課題である。また、説明が長すぎると、かえって理解しにくいとの感想があり、自分の言葉で、スライドごとのテーマを伝えられると参加者の理解やスキルの習得に繋がると思われる。



## フォスタリングチェンジ・プログラム in 佐賀

佐賀県里親支援 こねくと 野口 裕美子 児童養護施設 済昭園 石橋 みどり  
 児童養護施設 洗心寮 古川 三十里 児童養護施設 慈光園 松尾 直樹

- 【実施主体】 佐賀県里親支援 こねくと 佐賀県里親支援専門相談員
- 【実施期間】 2022年4月22日~8月5日(毎週金曜日) 10:00~13:00
- 【実施場所】 勤労身体障害者教養文化体育館 会議室(佐賀県総合福祉センター敷地内)
- 【参加里親】 5名(養育里親4名、養子・養育里親1名)  
出席率90%
- 【実施体制】 ファシリテーター4名

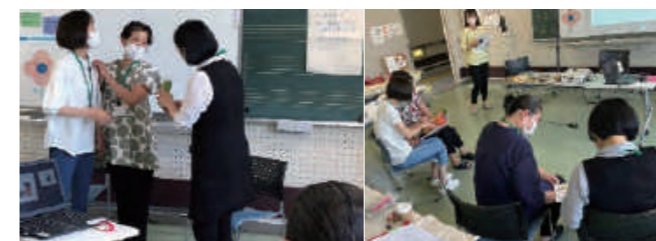


### 実施状況

- 2年ぶり3回目の実施。比較的早い段階で里親同士が互いに話せる関係性を築けていた。
- 里親同士で提案や問題提起、解決策を積極的に出されていた。
- ベテランの方と委託間もない方など、経験年数もそれぞれ違っていたので、ベテラン里親の経験や考え方を参考にされる場面がよく見られた。
- コロナ禍のため、感染状況によってはオンライン実施も検討したが、全セッション対面で実施した。
- 11セッション終了後、コロナ罹患された方からの意向で、参加者全員で最終セッションを迎えたいとの要望があり、最終セッションは2週間延期して行った。

### プログラム時に工夫したこと

- スライドとは別にわかりやすいよう補足資料を作成。
- カタカナ言葉を馴染みやすい言葉に置き換えて説明をした。



- セッション1で決めた「グループのルール」を適時確認しながらセッションを実施した。
- 季節の花などを用意し、明るい雰囲気づくりを心がけた。
- LINEによる参加者のグループを作ったことで、一斉連絡・案内をスムーズに行うことができた。
- 里親登録研修にてFCPの告知を積極的に行っている。

### まとめと課題

- 参加者内で積極的過ぎるアドバイスをプレッシャーに感じてしまい「責められているように感じた…」と逆効果になってしまうケースがあった。(即対応)
- 家庭での実践の取り組み状況がよくなかった。
- 受講者から「このプログラムを全里親が受講した方が良い」「FCPをきっかけに里親同士のつながりができたことが良かった」とのご意見をいただいた。



## フォスタリングチェンジ・プログラム in 大分

児童養護施設小百合ホーム 御手洗 隆史  
児童家庭支援センター「和」 山本 さやか

児童養護施設光の園 奥部 陽子  
乳児院栄光園 松井 美穂 衛藤 真弓  
齋藤 光里 本庄 公多子

- 【実施主体】 社会福祉法人栄光園 乳児院 栄光園 (大分県委託事業)
- 【実施期間】 2022年9月22日~2023年2月2日 (毎週木、金曜日) 10:00~13:00
- 【実施場所】 社会福祉法人栄光園 児童養護施設 栄光園 心理棟
- 【参加里親】 3名 (養育里親3名)  
出席率94%
- 【実施体制】 ファシリテーター7名



### 実施状況

当初4名からのスタートだったが、1名が病気療養のため辞退し3名となった。今年度から県の委託を受け、乳児院が実施することとなり、またファシリテーターも増え新たな気持ちでプログラムをスタートしたところだが、コロナ感染拡大で施設を使用できない日もあり、予定していた日程より大幅に遅れた。参加者は、期間中お互いに悩みを聞いたり励ましたりしており、仲間意識も強くなっていった。

### プログラム時に工夫したこと

- 感染対策として、毎回の体調チェック表の記入と、部屋の換気、おやつを個包するなどの工夫をした。マイクや手指の消毒を行った。
- 前回のおさらいとして、学習内容をまとめた「ニュースレター」を参加者に渡し、家庭でも振り返りができるようにした。



### まとめと課題

参加者は同じくらいの年齢の里子を養育している里親であったため、プログラムの共有はもちろん子育ての情報交換もできており、とても良い雰囲気だった。

課題として、テキストのまま進めるとなかなか日本人になじめない部分があり、内容を変えずになるべく身近な例を出すなど、わかりやすく伝えることが必要だと思った。また今回は特性のある里子を養育している里親もいたため、特にロールプレイなど、ありきたりの題材ではなく、日常に起こりやすい題材を選ぶ等、イメージがわきやすくなるような工夫をしていきたい。



## ファシリテーターフォローアップミーティング

地域でのプログラム実施を円滑なものにするため、養成講座終了後もファシリテーターが集まり、疑問点の解消や支援者同士の繋がりを共有する「ファシリテーターフォローアップミーティング」を実施しています。昨年度に引き続き、今年度も新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、全て「オンライン」で、計4回開催されました。

### オンライン開催

- ▶ 第一回目 2022年6月14日 参加者13名  
参加地域：栃木、新潟、富山、三重、京都、広島
- ▶ 第二回目 2022年10月13日 参加者6名  
参加地域：神奈川、高知、長崎、熊本
- ▶ 第三回目 2022年11月22日 参加者18名  
参加地域：青森、千葉、東京、神奈川、京都、大阪、広島、山口
- ▶ 第四回目 2022年1月24日 参加者23名  
参加地域：青森、栃木、千葉、神奈川、新潟、滋賀、京都、福岡、熊本

#### 参加者ご感想

- 他機関の取り組みが具体的であり、とても身近に感じた。
- オンラインではあっても、仲間の存在を感じ取ることが出来た。
- 現状気になっていた課題が共有でき、他施設も頑張られている様子が同えモチベーションに繋がった。
- 定期的にこのような研修があると、実践してみても新たな悩みや改善すべき点等も共有できると思った。
- オンラインでは情報が途切れることがあるので、対面での実施をお願いしたいと思った。
- 実施されている方々の意見やそれに付随する先生方のコメントから、自身の悩みを解消につなげるヒントをいただけた。

#### 考察

今年度も昨年に引き続き、コロナの影響によりオンラインでの開催が主となった、今ではご参加の皆様にもオンライン環境に柔軟に適応いただけており、全国の都道府県から参加しやすいという点は大きなメリットとして周知されている。それらも踏まえ今回も具体的な問題や課題、意見が交換された。今後、コロナに対する価値観が変化し共存していかなくてはならないと考えられるが、オンラインの需要が無くなるわけではない、オンラインとオフラインのそれぞれの必要性を把握しながら取り組む必要があると料する。

### コンサルテーションデイ

フォスタリングチェンジ・プログラムの開発のメンバーであるキャシー・ブラッケビー氏(Kathy Blackeby)とキャロライン・ベンゴ氏(Caroline Bengo)が、実践について公開コンサルテーションを受ける機会としてコンサルテーションデイを行っています。2021年度は、残念ながらコロナの影響で開催を見送りましたが、今年度は、7月にオンラインでの開催が実施されることとなり34機関から43名の参加者が集まりました。

#### 参加者ご感想

- キャシーたちの取り組みだけでなく、日本の取り組みも知れて良かった。
- オンライン実施の実践事例と工夫点がよくわかった。
- ハイブリッド型の話をもう少し深めたかった。
- オンラインで行う際に、どのような事前取り組みが必要なのか、ロールプレイの方法などを知ることができた。
- 自分たちが悩みながら開催している中、他県も同じように取り組み、前を向いて進んでいる姿に元気をもらった。

#### 考察

今回で第2回目となるコンサルテーションデイは、イギリスでもオンラインでのFCP開催が定着していることから、テーマを「オンラインにおけるフォスタリングチェンジ・プログラム」とし、キャシー氏・キャロライン氏からイギリスでの実践内容を踏まえ、多くのヒントやアドバイスをいただく貴重な時間となった。特に、工夫点における観念の違いは啓発される大変興味深いものとなり、今後も定期的な開催は重要だと料する。

## プログラムに関する里親の評価

プログラム終了後、計19か所(北海道、青森、岩手、茨城、栃木、千葉、東京、神奈川、新潟、山梨、長野、静岡、京都、大阪、広島、山口、福岡、佐賀、大分)の受講者109名に対して、調査を実施致しました。

### ◆最も役に立つと思った考えやスキル(1人5つまで回答可。回答者80名)

スキル名	回答数
●アテンディング	61名
●選択的視野	52名
●効果的に褒める	41名
●リフレクティブ・リスニング	38名
●ストップ・プラン・アンド・ゴー	35名

### ◆子どもの行動の変化(5段階評価 1:ひどくなった ⇄ 5:大変よくなった)

実施場所19か所の合計 対象児(回答者106名) 平均点 4.17点/5点満点  
 実施場所19か所の合計 きょうだい児(23名) 平均点 3.7点/5点満点

#### 関係性

- 目を見て話す事が増えた ●遊ぶ時間を具体的に求めてくるようになった
- 子ども自ら手を繋いだり「大好き」と言って来るようになった
- 家族の時間が増えた ●お互いに甘え合えるようになった
- 子どもというより親の変化です、関わり方を変えることで良い点に注目しようという意識や声掛けが増した

#### 感情調整

- 感情のアップダウンが穏やかになってきた ●よく怒っていたが、今ではよく笑う
- 自己肯定感が強くなった ●自分の思いを言葉で表現できるようになった
- 思い通りにならない事への耐性や折り合いの付け方、我慢が出来るようになった

#### 行動

- 出来ることは自ら進んでやるようになった ●素直に動く頻度が増えた
- 自分への行動の責任感がみられ、積極的に取り組むようになった ●試し行動が減ってきた
- 家庭内でのルールを守れるようになった

#### 学校

- 学校や友達の話をするようになった ●自ら宿題や準備をするようになった
- 学校へいく回数が増えた ●友達と仲良く遊べる事が増えてきた

#### その他

- 朝食を食べる日が増えた ●「どうせ僕なんて」と言わなくなった ●言葉の発達がみられた
- 周りにも優しくなった ●落ち着くようになり、笑顔が可愛くなった

### ◆里親と里子の関係性(5段階評価 1:とても悪い ⇄ 5:とても良い)

実施場所19か所の合計(回答者105名) 平均点 4.34点/5点満点

- 里親への信頼感が上がり、子どもが素直に話を聞き行動出来るようになった
- 子どもから対抗意識を持たれていたが、今では仲間意識や家族といった自覚が芽生えてきた
- ネガティブな感情で向き合う事が減り、ポジティブな感情で笑い合う時間が増えた
- 愛情が深まった気がする、褒めることが多くなり子どもが嬉しそうに抱きついてくれることが増えた
- このまま一緒に過ごせるか不安な時期もあったが、ありのままを受け止め成長を見守って行き、何でもしてあげたいと思えるようになった
- 子どもの気持ちを聞けるようになったし、自分も自身の気持ちを伝えられるようになった
- 子どもとしてではなく、一人の人間として対応するようになった

### ◆里親としての感じ方への影響

#### 内省

- 観察や振り返りの時間の大切さを実感し、学んだスキルでまずは自分自信が安定すること、それが子どもの成長にも繋がると感じた ●居場所や安心感を与えることへの必要性をより感じた ●里親になって良かったと心から感じれるようになった ●大きな目線で見守ることが出来るようになった ●子どもの気持ちに寄り添えるようになった、それによって自分自身の気持ちも楽になった

#### 変化

- 子どもの行動、発言を受容しつつ、一緒に改善策を考えられるようになった ●否定的に考えず、前向きになれた ●子どもの行動を肯定的に捉えるようことが出来るようになった ●これまで、子どもの問題行動にばかり目が向いていたが、子どもの良い行動に目が向くようになった ●問題があってもいつか改善しているという方向で考えられるようになった

#### 自信

- 今まで不安な事が多かったが、子どもへの対応のバリエーションが増え自信がついた ●前よりも自信をもって、里親を続けても良いと思えるようになった ●子どもに対し良かれと思っていたことが必ずしも良いとは限らない事に気付き、子育てで不安を感じていた部分に自信が持てるようになった ●今後も、里親として子どもと向かい合って過ごしていく自信ができた

#### 仲間

- 仲間と話せることの大切さに気付かされた ●私だけではなく、皆様も悩んでいると共感できた ●実践をしながら集中して研修を受けたこと、仲間と励まし合えたことで私もやれる、少しずつ変わっていけると考えた

### ◆家庭訪問を受けたことでどう役に立ったか(複数回答可)

回答者(106名)	回答数
a.全く役に立たなかった	1名
b.コースに参加することに自信が持てた	48名
c.里親として支援されていると感じた	77名
d.ファシリテーターは、里親として、私が必要としていることに関心があるとわかった	51名
e.その他(自由記述)	28名
●専門的な支援についても相談できる方だと思えた	
●どんな環境で暮らしているか、子どものエピソードを話す時に背景も知って頂けると思うと安心できた	
●コースに参加する目的をハッキリさせることに役立った、参加する後押しになった	
●今抱えている問題点が見えてきた	
●現在困っていることも語れる場面があり、そんな問題にも取り込む方法があると知り希望が持てた	
●日頃から支援機関として関わりがあり委託状況を把握されていたので、日程等の説明を受けながら受講が楽しみなった	
●子どもとの関係や現状など理解してもらえているという安心感のもと学習することが出来た	

## 2022年度の実践と今後の課題

広島国際大学・SOS子どもの村JAPAN 松崎 佳子

フォスタリングチェンジ・プログラム(以下FCP)は、ネグレクトや虐待が与える影響を考慮しつつ、効果的なコミュニケーション、問題解決のスキルを重視し、里親が日々の生活の中で、子どもの行動のニーズを把握し対応できるようになること、子どもとの良好な関係性の構築を目的としている研修です。2016年度福岡と熊本でスタートし、全国地域へ広がってきていますが、2020年からの新型コロナの流行により、各地の研修会やイベント等は、延期や中止をせざるを得ない状況となりました。FCPは、時期の検討や消毒、安全な場所の設定などのコロナ対策を工夫することにより各地域で実施の努力を続けてきました。今年度は、全国19地域で実施され、そのうち2地域では、複数回の実施となっています。

ファシリテーター養成については、2019年度より日本人トレーナーによるファシリテーター養成講座を実施することができるようになっています。2020年からは、すべてオンラインによる養成講座(4日間)でした。今年度は、9月はオンラインでしたが、2月は3年ぶりに対面式での養成講座を実施できました。この3年間のオンラインによる講座も受講生からの評価では、対面実施時とそれほど変わらない感想をいただいていたのですが、やはり、FCPのもつ人と人の繋がり、温かさ、親近感を体験するなかから、対面式の良さを改めて実感できた4日間でした。しかし、受講しやすいオンラインに比べ4日間の出張による日程や交通費をどのように確保できるかも改めて課題となりました。オンラインと対面式の良さを生かしたハイブリッドによる養成講座のあり方を工夫していく必要があります。

各地域での里親さんへのFCPについても、遠距離地域への実施課題があります。オンライン使用や対面との組み合わせ等による実現性についてさらに検討を進めていく予定です。

今年度は、延期になっていたキャシー&キャロラインによるコンサルテーションデイを実施できました。英国ウェールズにおけるオンラインによるFCP実施についての情報もいただきましたので、さらに質の確保を図っていく予定です。

ファシリテーターフォローアップミーティングは、すべてオンラインにより4回実施しました。ファシリテーターには年1回の受講を推奨していますが、いずれのミーティングも定員いっぱいの申し込みがありました。今後も全国各地で実施されるFCPが質の保証された研修であるためには、ファシリテーターの質の保証が必須であり、さらにシステムづくりとネットワークを構築していくことが必要と考えています。

2024年度には、フォスタリング機関が、里親支援センターになるなど、さらに制度の位置づけが明確になり機関の設置が進むと予測されます。里親委託の推進は、里親支援と両輪で行う必要があります。里親養育は、中途養育であり、愛着、関係性の構築の難しさを抱えた養育です。FCPは、それらに対して里親自身が自ら工夫し取り組むことを支援する研修です。里親委託後研修として位置づけられ、各地でさらに実施されることを願っています。

FCPの日本導入及び実施に関し、多大な助成支援をいただいている日本財団に感謝申し上げます。

発行 2023年4月  
一般社団法人 無憂樹  
〒160-0023  
東京都新宿区西新宿7-4-7 イマス浜田ビル5階  
TEL : 03-6869-0192 FAX : 03-6869-0228  
MAIL : info@muyuju.org

<http://muyoujyu.com>